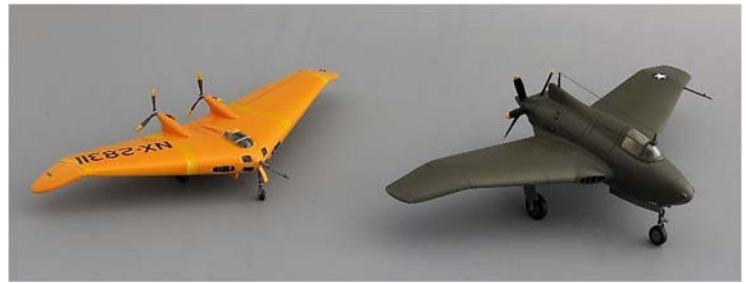


～ノースロップN-1M全翼機



[同じくノースロップ社のXP-56と↑]



[ダッジ・トラック(ミニカー)と↑]



本機、ノースロップ N-1M は、ジャック・ノースロップが人生をかけて開発した一連の全翼機(Flying wing)群のトップバッターとなった機体です。1940年に初飛行しています。尾翼を有さない機体であるが故に、その安定性を確保することは難しく、厚く、迎え角のついた主翼とすることで安定性を確保していました。飛行方向の制御は、下側に折れ曲がった左右の翼先端部についたエルロンで行われ、ラダーを兼ねさせていました。しかし、この模型写真からわかるように、高速で機敏な機体ではなく、あくまで全翼機の研究の基礎となった機体でした。なお、左右のプロペラは他キットを流用したため、逆回転のものとなってしまいましたが、実機は同方向に回転します。このあと、翼端を折り曲げない、全部が直線翼となったタイプも製造されています。ちょうどこの頃行われた、米国陸軍の、プッシャー型コンペ R-40C に、ノースロップは XP-56 試作戦闘機を提案しましたが、この機体による研究あってこそこの機体でした。左下写真からわかるように、翼は相当に厚く、エアインテークの形状を含めて『未来少年コナン』に出てくるギガントに似ています(色はファルコですが…w)。

【模型について】

チェコのプラネットモデル 1/72 のレジンキットです。単純なパーツ構成ですが、カチットした良いキットです。ただ、プロペラがダルで使用できなかったため、1/144 の双発機のプロペラを探したのですが、手元に P-38 のものしかなく、左右の回転方向が異なってしまっています(上述の通り、実機は同方向回転です)。

(中川裕幸 2022年3月)